

[報告 5]

## 新規就農者への研修・個別指導について

松山 秀人 (有限会社ジェイエイファームみやざき中央 専務取締役)

### JA 宮崎中央の概要

(有) ジェイエイファームみやざき中央の母体、JA 宮崎中央の行政エリアは宮崎市と国富町で、管内人口は約 42 万人。正組合員 10,350 人、役職員のうち理事 27 名、監事 7 名、正職員 658 名で、うち営農指導員は 65 名となっている。

購買高 151 億円、販売高 238 億円。野菜販売高は 136 億円で、その内訳はキュウリ 64 億円 (2 万 t)、トマト類 13 億円 (3,400t)、ピーマン 18 億円 (4,400t) と、典型的な施設園芸の作物をつくっている。

→管内図：太平洋の日向灘の海岸に沿った地域を占めている。年間の平均気温は 18℃。日照時間や降水量は全国トップクラス。



会社の主な事業は育苗事業で、野菜苗の取扱高 5 億 5,800 万円、水稻苗は 2 億 6,800 万円。また農業経営事業ではキュウリ、ミニトマト、ピーマンなどをつくっており、



その売り上げは全部で 9,000 万円。これから報告する新規就農研修事業は、この農業経営事業のなかに入っている。農作業受委託事業では堆肥供給が 3,200t。施設園芸が盛んな地域のため、ビニールハウスの圃場に入れる堆肥の供給量が多い。水田作業は少なく、350 万円程度の売り上げしかない。以上合計で 9 億 6,100 万円の売り上げがある。

農地の状況は、会社が購入した会社所有の土地、JA から借りた土地、農家から直接借りた土地があり、合計で 2,488a。そのうち 1,505a に、ビニールハウスとガラスハウスの施設が建てられている。全農地のうち 311a が新規就農者に貸し出されており、そのうち 170a が施設面積だ。

新規就農研修生の受け入れは 2006 年から始まり 2014 年度の 12 名まで、合計 83 名を受け入れてきた。

### (有) ジェイエイファームみやざき中央の概要

(有) ジェイエイファームみやざき中央は、JA 宮崎中央の子会社として、2006 年 2 月 1 日に設立された。資本金は 1 億 990 万円。役員は、代表取締役が JA 宮崎中央の組合長。取締役は私のほかにもう 1 名が農協から出向している。監査役は農協の代表幹事と常勤監事をお願いしている。年間雇用の従業員は、JA からの出向職員 3 名、正社員 11 名、準社員 11 名、臨時雇用者 32 名と、57 名体制でやっている。忙しいときには、他にパートを 40~50 名雇うときもある。

### 新規就農研修事業の設立の背景

新規就農研修事業設立の背景を説明したい。全国どこも同じだが、JA 宮崎中央管内でも農家の高齢化や後継者不足が目立ってきた。いずれは遊休農地・耕作放棄地の拡大、地域農業・集落の衰退につながることを予測されたので、この事業を立ち上げた。

「立ち上がる JA」と資料で強調しているが、この構想は私の前々任の専務がつくり、私も一緒になって事業に取り組んだ。構想を行動に移すため、

「一緒にやろう」と宮崎市に構想に持っていった。そうしたところ、市長以下賛同していただき、市職員を出向で派遣してくれることになり、研修生の生活補助金と指導者の補助金をつけてくれた。

研修圃場は、当初は JA の育苗センターに置いたが、会社でも耕作放棄地を購入してわれわれが整備し、研修事業立上げの翌年、2007 年くらいから 10 名前後の研修生を受け入れることができた。

### 研修事業の目的は地域に定着させること

私たち職員は、この研修事業に一生懸命になった。なぜか。これは私の体験だが、農業を全くしたことがない研修生が、暑いハウスの中で汗だくになり汚れながら、「ここで 1 年間研修すれば俺は農業ができるんだ」と信じて仕事をしている。その姿に感動して、「こいつらを絶対に、何が何でも独立就農させてやる」という気になった。そしてジェイエイファームみやざき中央や JA 宮崎中央、市町村や普及センターの職員が一体となって、本気でこの事業に取り組んで、現在 8~9 年になる。その結果、ようやく事業の基盤ができたのではないかと考えている。

研修事業の最終的な目的は、研修生が研修で終わらないということだ。つまり研修生が農業という職業に就く、地域に定着するというのが目的だ。現在 71 名の卒業生を各地域に送り込み、定着させている。そのなかには、キュウリ部会などでトップクラスの収量をとるものも出てきて、近所のベテラン農家も「若いもんには負けちやれん」と、お互いに切磋琢磨して発奮材料になっていることも確かだ。こうして地域農業の維持・発展に貢献しているのではないかと考えている。

### 新規就農研修事業の概要

研修生の要件だが、おおむね 50 歳まで、農業に対する固い意志と意欲があり、修了後は宮崎市もしくは国富町に居住できる者としている。この要件で、宮崎市と国富町から補助金をもらっている。

研修期間は 8 月 1 日~7 月 31 日の 1 年間。施設園芸 (ビニールハウス) の園芸年度に合わせている。

研修作物は、JA の重点作物の施設キュウリ、施設ミニトマトに限っている。なかには、「マンゴー

がやりたい」、「日向夏がやりたい」と言ってくる人もあるが、キュウリとトマトは失敗が少ないため、この 2 作目に決めている。

募集人員は 10 名程度で、研修の助成金は、国庫事業である青年就農給付金準備型を活用している。それに合わない人に対しては、市と JA グループの年間 120 万円の補助金を活用している。

### 研修方法

研修カリキュラムがあるが、要は土づくりから収穫終了後の後片付けまでを 1 年間でやってもらう。ひとり 1 ハウス (10a 程度) を担当し、責任を分担させている。

技術指導には、JA の営農指導員 OB2 名と研修事業担当者としてわが社の従業員 2 名の合計 4 名を配属させている。

座学は主に普及センターが中心になって、農業機械の取扱いや肥料・農薬の適正使用、ハウス構造などの講習会を行なっている。

認定就農者になるために、JA や行政が中心となって助言し、最後には実績検討会・成績発表会を行なっている。

### 研修参加の動機

来週 6 月 15 日に第 10 期生の面接を行なう予定だ。これまで 100 人ほど面接をしてきたが、研修参加の動機はだいたい 3 つに分けられる。

#### (1) 継承保全型

参加の動機を尋ねると、10 人中 9 人が、「小さいころから土いじりが好きだった」、「親戚が農業をしている」と言うのだが、よくよく尋ねると「親に勧められたから」という人がいる。どちらかというとう仕方なく来たわけで、ひどい人の場合は、親が研修申込書を書いてよこす人もいる。そういう人はあまり成功しない (笑)。

東京などで働いていたが、実家で農業をしている親が歳なので、これからは自分が「親の後を継ぎ、田んぼやハウスを守らなければならない」という強

い気持ちでやってくる人もいます。こういう人は成功する。

## (2) 利益主義型

「他に仕事がない」「今よりも儲けたい」という人がいる。2010 年くらいだったが、派遣切りが流行った年には非常に多かった。派遣は仕事が安定せず賃金が安いので、「農業をやれば少しは儲かるだろう」ということで、自己資金は少ないが意欲のある人は多かった。

## (3) 現実逃避型

「勤めはいやだ。田舎で家族と一緒にいる時間がほしい」と、都会の一流企業に勤めるサラリーマンが退職してくることもある。「人間関係で悩まなくていい」、つまり「人に使われたくない。人と関わりたくない」という参加動機もあるが、農業も地域住民や部会、JA との関わりあいは出てくるので、こういう人は系統外に走る傾向がある (笑)。

「食えればいい」「自然・田舎暮らしがしたい」という方は、申し訳ないが最初からお断りさせていただいている。何十年ものベテラン農家でも食えないときはある。

## 心と体づくり

研修生をどうやって育てていくか。当初は「やる気」満々で入ってくるが、研修が始まり、収穫が始まると、延々と同じ作業が続く。そのため心が折れそうになったり、「もうやめよう」と思う研修生もたくさんいると聞いている。それでもみんながんばっており、「根気」を養っている。

「素直さ」も大事だ。「技術指導者は素直に言うことを聞く人には、技術を教えます。言うことを聞かない人には教えません」とはっきり言っている。実際に就農してからも、素直に営農指導員の言うことを聞く人がお金を取っている。言うことを聞かずに新しいこと、新しいものに手を出す人は、あまりお金を取れていない。

研修中はきつい仕事や根気がある作業がずっと続くが、それを 1 年間でまんしてやっていけば、いつの間にか「心と体が慣れ」てくる。ハウスの中は 40℃ くらいあるが、農家が汗びっしょりで汚れて作

業している姿を初めて見ると、研修生は「農業とはこんなに大変なものなのか」と皆びっくりする。しかし研修が終わるころには、「それが農業では当たり前なんだ」と思うようになる。

## 新規就農研修生の心得

新規就農研修生の心得として、ずいぶんひどいことを (笑) 掲げている。

### ○ 休みは無いのと思え

実際に作業を始めたなら休みはない。きゅうりの収穫などは毎日ある。収穫しないと商品価値がなくなってしまう。健康管理上、月に 5 日の休みは与えているが、「休みは無いのもの」というつもりで来いということだ。

### ○ 遊びは捨てる

1 年間は研修に専念しろということ。研修生の平均年齢は 33 歳。農業をやろうと思えば、75~80 歳までやれるので、研修生にはあと 30~40 年くらいの時間がある。そう考えれば、たった 1 年くらいは農業に専念してもいいのではないか。「一生を棒に振るより、1 年間の遊びを棒に振った方がいい」と教えている。

### ○ 指導者命令は絶対服従

「言うことを聞かない人は出ていってください」とまで言っている。

### ○ 仲間をつくれ

農業はひとりではできない。「研修生同士・同期生同士で、一緒に飲み会などをすべし」ということだ。

## 新規就農研修事業カリキュラム

研修スケジュールは、8 月から翌年の 7 月までだ。キュウリ・ミニトマトの栽培研修では、8 月に土づくりをし、10 月ごろから管理・収穫が始まるが、8 ヶ月くらい同じ作業が延々と続く。そして 7 月になって、ようやく片づけになる。これが技術研修で、座学・経営管理研修では、農作業の安全や補助事業

の説明会、就農認定計画書の作成の研修会などを行っている。

その他の研修では、8 月 1 日の会社オリエンテーションから始まり、キュウリの栽培講習会、青年部の研修会、新規就農者同士の意見交換会、農業委員会の総会、作物の目揃え会などがある。最終日となる 7 月 31 日には成果発表会を行ない、研修生ごとに収入や費用などを全部出し、黒字になったのか、あるいは赤字になったのか、組合長の前で報告させている。

## 新規就農研修事業 契約書

新規就農研修に参加するにあたっては、契約書を交わしている。

契約書の第 3 条は「農地・施設等の確保について」、第 4 条は「各種補助事業について」書いてある。研修当初は空ハウスや空き農地がたくさんあったし、補助事業もあった。だが、いまは中古ハウスもなく補助事業の採択も難しいという状況だ。それでも、「農協を責めないで、自分でどうにかしてください」(笑)ということが書いてある。

## 研修生の動向

いままでの研修生応募者 129 名、実際の受講者 83 名、うち県外出身者は 21 名いた。

性別では男性 81 名、女性 2 名。平均年齢は 33 歳。既婚者 50 名、独身 33 名。実家が農家という人は 32 名、まったく農業と関係ない人が 51 名だ。

就農作物は、キュウリ 44 名、トマト 15 名、イチゴ 4 名、ピーマン 1 名、そのほか 4 名となっている。大変残念なことに就農を断念された方は 3 名いた。

就農形態は、独立就農 52 名、親元就農 14 名、法人 2 名。就農面積は、キュウリ平均 23a、トマト 19.7a。農地を借りている人が 35 名、親族の農地を借りるなり自分の名義にした人が 21 名、農地を購入した人が 8 名。

就農施設の状況だが、最初のころは中古ハウスの購入や移設、賃借が多かったが、中古ハウスがなくなり、最近では新設が増えている。次に述べる新規就農入植団地には 3 名が入植している。

## 新規就農入植団地

### (1) 取り組みの背景

年々中古の空きハウスを見つけることが難しくなり、一方で新設ハウス建設の補助金採択が厳しくなっている。新設ハウスを建てても、よほどの資金がないかぎり就農計画は成り立たず、そのため独立就農が難しくなっている。こういう状況を踏まえて、研修卒業生が就農できる入植団地をつくらうということになった。ハウス(写真①)と共同の農業倉庫(写真②)を建て、7 名が入植できる。

### (2) 施設概要

わりと安く建設できる AP ハウス 2 号改良型というハウスで、1,700m<sup>2</sup> が合計 7 棟ある。付帯設備として加温機もあるフル装備だ。

事業主体は JA 宮崎中央で、事業名は「宮崎市新規就農者入植団地整備事業」。事業費は合計 1 億 3,000 万円。補助金を宮崎市から 5,690 万円出してもらい、あとは自己資金だ。

運営はジェイエイファームみやざき中央が行なっている。

### (3) 入植団地の要領

対象者は新規就農者で、後継者の作物転換者を含む。入植者の要件・条件は、既存部会への加入、JA 全事業への理解、関係部会・関係機関の審査会で認められること、JA 全量出荷、販売代金から 30%天引き貯金、ハウスの賃借料や資材代の支払い、自分で農業共済へ加入することとなっている。期間は、原則として 3 年まで OK となっている。

賃借料は 1 年間で約 65 万円。この賃借料が高いか安いかわからないが、実際にハウスを建てたら現在 2,000 万円くらいかかる。「就農当初から 2,000 万円の借金を背負うのか、1 年間の賃借料 65 万円を払うのか。よく考えてください」と新規就農者には言っている。

### (4) 契約・規約

賃借期間は、野菜の事業年度と同じ 8 月 1 日～7 月 31 日。保守修繕は、入植者の負担だ。環境整備



として、草刈りや除草、地域の共同作業、ごみ・残渣の処分、掃除などを定めている。また農薬管理にも気を付けてもらい、もし事故や事件、周囲とのトラブルがあれば、すぐに会社に報告してもらうことを義務付けている。

### (5) さらに・・・

以上は 1 号団地についてだが、現在 2 号団地も建設中だ。間もなく完成し、8 月 1 日から入植が始まる予定だ。こちらのハウスは少し大きく、約 3,000 m<sup>2</sup> のものが 4 棟建つ。3 号団地もすでに土地の選定に入っていて、来年度には同規模程度のハウスを建設することになっている。

### (6) 「次世代施設園芸導入加速化支援事業」

「次世代施設園芸導入加速化支援事業」は、農水省の林大臣がオランダで先進的な施設園芸ハウスを視察し、こういったハウスを日本にも持ってこようということで始まった国の事業だ。現在、全国で 10 ヶ所ほど事業を進めており、宮崎県にもそのハウスを作った。これも JA 宮崎中央が事業主体で、運営はわが社が行なう。新規就農者などが研修を卒業し、入植団地で 3 年間みっちり勉強して自信をつけ、この次世代型のハウスに入ることも可能にしようということで、事業を進めている。

整備内容としては、「低コスト性の対候ハウス」を 9 棟、全部で 4.1ha のハウスができています。環境制御装置など最新のシステムを導入して、環境整備を図っていく。そのほかに、集出荷施設や育苗接木養生施設、野菜苗播種土詰施設、育苗用硬質ハウスなどもつくっている。総事業費は 15 億円ほどになる。

### (7) 最後に

昨年 6 月 6 日の朝日新聞に、JA グループで全面広告を出したが、この広告のなかでジェイエイファームみやざき中央の研修事業を紹介してくれた。広告の写真(右上)は、研修生と研修生の奥さんたちだ。昨年の 6 月といえば、降って湧いたように農協改革が出された時期だ。

この広告に、「やる気だけでは農家になれない。JA があったから、夢はかなった」とある。この研修生たちはすでに独立就農をしており、全員夢を叶

えている。生き生きと農業をし、年収何千万円という人もいます。

以上、ご清聴ありがとうございます。ありがとうございました。



### 質疑応答

Q. ①新規就農研修事業の契約書第 2 条の適用、経費の返還は現実にあったか?

②年間で研修の経費はどのくらいかかっているか?

(松山) ①実際にあった。行政の補助金をまず行政が会社(ジェイエイファームみやざき中央)に請求し、それをジェイエイファームが行政に払って、その分を回収させていただいた。

②指導員や顧問、従業員の人件費、ハウスの減価償却費等、全体で約 300~400 万になるかと思う。

Q. ①育苗事業は管内の何%をカバーしているか?

②新品を購入するのは大変だと思うが、研修を終え定着する研修生は、農業機械等の準備はどのようにしているのか?

(松山) 育苗事業が管内をカバーしているのは、6割前後だと思う。農機関係は、だいたい近くの農家から借りている。ハウス事業だと、トラクターが必要になるのは年に 1 度か 2 度。JA のリース事業でもトラクターが借りられるようになっているし、ジェイエイファームみやざき中央でも農作業受委託でハウス内の耕運などを行なっている。

Q. なにゆえ宮崎に新人が希望してくるのか?

(松山) 県外からきた人のほとんどといっていい人が、サーフィン目当てで移住してきている(笑)。それとも、付き合っていた彼女、奥さんが宮崎出身で来たという人が多い。